

(別添2)

事業評価の結果（内容評価項目）

福祉サービス種別 保育所
事業所名 佐久市立東保育園

【第三者評価の判断基準】

長野県福祉サービス第三者評価基準の考え方と評価のポイント、評価の着眼点【保育所】共通項目に係る判断基準による

○判断基準の「a、b、c」は、評価項目に対する到達状況を示しています。
 「a」評価・・・よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態
 「b」評価・・・aに至らない状況＝多くの施設・事業所の状態、aに向けた取組みの余地がある状態
 「c」評価・・・b以上の取組みとなることを期待する状態

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
A	1 保育内容	(1) 保育課程の編成	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1 保育課程は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。 ■ 2 保育課程は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。 ■ 3 保育課程は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。 ■ 4 保育課程は、保育に関わる職員が参画して編成している。 ■ 5 保育課程は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。 	<p>○佐久市の保育理念に基づいた上で本園を取り巻く状況や子どもの姿を踏まえた保育課程が作成されています。</p> <p>○保育課程を保育計画に生かし、どの保育士も1年を通して偏りのない保育を目指すよう月案から週日案、個別指導案にと一貫性、連続性を大切にされています。</p> <p>○週日案では、職員間で話し合いながら子どもの発達や興味関心に沿い立案しているため、実践に対する評価・反省を活かした保育が行われています。</p>
		(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 6 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を、常に適切な状態に保持している。 ■ 7 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。 ■ 8 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。 ■ 9 内装等には、木材を利用している。 ■ 10 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。 ■ 11 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。 ■ 12 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。 	<p>○内装には木材が使用され、古いながらも落ち着いた環境で、過ごしやすい工夫がされています。</p> <p>○古い造りのため、広々としたスペースを確保することは難しいですが、一人ひとりの子どもがゆったり過ごせるよう、遊具の配置や椅子などが置かれ、工夫がみられます。</p> <p>○トイレは、職員が常に清潔であるよう意識し配慮がされていました。また、テラスの手洗い場の縁には、クッション性のある素材が使われ安全面での工夫が見られました。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 13 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。 ■ 14 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。 ■ 15 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。 ■ 16 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。 ■ 17 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。 □ 18 せかさず言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。 	<p>○個々の家庭環境や生活リズム、発達過程を職員全員が把握し、担任を中心に加配保育士や補助の保育士がチームとして子どもと関わり子どもの気持ちに沿った保育をしています。</p> <p>○子どもが安心して自分の気持ちを伝えられるよう、保育士が ゆったりと対応し子どもの気持ちにそった言葉がけやスキンシップに心がけていました。</p> <p>○子どもの生活や遊びが主体的なものとなるよう、せかさずじっくり待つ姿勢が大切であるということに、職員は気づき反省する姿がアンケートから伺えました。今後、園内研修を通して質の向上を目指していただきたい。</p>
			③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 19 一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。 ■ 20 基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。 ■ 21 基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。 ■ 22 一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。 ■ 23 基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて子どもが理解できるように働きかけている。 	<p>○生活習慣を身につけるための指導計画が作成され、保育士自身がその大切さを理解して援助をしています。</p> <p>○自分でやろうとする気持ちを大切にしてい、できたという達成感を味わえるようにしています。子どもの発達に合わせて、一人ひとりに合わせた基本的な生活習慣の習得ができる支援の工夫をしていました。</p> <p>○遊びや食事、休息等、子どもの生活リズムに沿って一日の流れが設定されています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 24 子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。 ■ 25 子どもが自発性を発揮できるよう援助している。 ■ 26 遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。 ■ 27 戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。 ■ 28 生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。 ■ 29 子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。 ■ 30 社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。 ■ 31 身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。 ■ 32 地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。 ■ 33 様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。 	<p>○信州型自然保育認定制度（やまほいく）に認定され、自然体験保育を実践しています。</p> <p>・散歩などを通して、自然の中でのびのびと活動し小動物や草花などに触れ園内ではできない様々な体験をする機会を作るよう努めていました。</p> <p>・収穫した自然物（木の実や葉っぱなど）で制作をしたり遊びを創り出したり自然を身近に感じられるような保育の工夫がみられました。</p> <p>○散歩や行事を通して地域の方と交流したり、マナーや社会生活のルールを知るなど様々な体験ができています。</p> <p>○段ボールや廃材など様々な素材を用いて子どもたちが自由に制作遊びが楽しめるような時間を設定したり、やりたいことができるよう用具が揃えられていました。保育士は子どもの指先の力や発想力の育ちを見逃さず自由な活動の中にも保育材選びなど発達に沿った環境作りをしていました。</p> <p>○近隣のお年寄りの施設との交流が積極的に行われ、事前な触れ合いが見られます。また、地域の方から散歩の目的地の安全についてお知らせいただくなど、子どもたちに温かいまなざしを向けていただいています。</p>
			⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 34 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。 ■ 35 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係（情緒の安定）が持てるよう配慮している。 ■ 36 子ども表情を大切に、応答的な関わりをしている。 ■ 37 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。 ■ 38 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。 ■ 39 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。 	<p>○発達が著しく個人差も大きい乳児期の保育にあたり、食事や睡眠等の基本的な生活リズムを整えながら、言語や運動機能の発達を促すような環境を作っていました。</p> <p>○子どもの発達をふまえた手作り玩具などを用意し、ゆっくりと優しく話しかけるなど、温かく受容的、応答的に関わり援助していました。</p> <p>○保護者との連絡ノートや送迎時のやり取りから健康状態の把握やその日の心身の状態、またできるようになったことを共に喜び合うなど保護者との連携が密にできていました。</p> <p>○0歳児では、愛着心を育てるため特定の保育士と関わる体制が整っており、安定した生活ができるよう配慮されています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<p>■ 40 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分ですらんとする気持ちを尊重している。</p> <p>□ 41 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。</p> <p>■ 42 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。</p> <p>■ 43 子ども自身の自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。</p> <p>■ 44 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。</p> <p>■ 45 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。</p> <p>■ 46 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。</p>	<p>○個々の発達や興味の差が大きい時期のため、それぞれに合った遊びのコーナーを設け、手作りのパーテーションで、区切るなどの工夫をしていました。</p> <p>○生活に必要な基本的習慣については、保護者との連携（連絡ノートや面談）を心掛け、一人ひとりの状態に応じた対応がされています。</p> <p>○手作り玩具を用意し子どもの興味や発達に応じた経験ができるように工夫されています。</p> <p>○保育室は、園庭を囲むように配置されており、大きいクラス子どもの体操や遊びなどの姿を見る機会が多く、一年の後半となった時期には、2歳児は3歳以上児との関わりも多く見られます。</p> <p>○クラスの人数が多く、一人ひとりの十分な探索活動を保障していくかが課題であると思われる。さらなる努力が期待されます。</p>
			⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<p>■ 47 3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 48 4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 49 5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。</p> <p>■ 50 子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。</p>	<p>○3歳児は、一年を通して様々な体験から意欲の土台作りができるよう保育士の配慮や環境づくりが見られ、3、4歳児は、年長児の様々な活動を見ることにより、年長児から刺激を受け、あこがれて行動を真似するなど成長が見られます。また、大きいクラスの子は小さい子に優しくしようとしたり自分ができることを手伝おうとしたりと心の育ちがみられました。</p> <p>○主体的な遊びのきっかけとして、室内環境を整え肯定的な言葉がけ子どもの意欲を高めていました。</p> <p>○当番活動等を通して友だちとの関りを深めたり自分の役割を果たそうとする気持ちが育っています。</p> <p>○育てほしい10の姿について、保育計画や日々の保育実践の中で育つよう配慮されており、保護者や小学校等に伝えていきます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑧ 障がいのある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 51 建物・設備など、障がいに応じた環境整備に配慮している。 ■ 52 障がいのある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。 ■ 53 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。 ■ 54 子ども同士の間わりに配慮し、共に成長できるようにしている。 ■ 55 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 56 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。 ■ 57 職員は、障がいのある子どもの保育について研修等により必要な知識や情報を得ている。 ■ 58 保育所の保護者に、障がいのある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。 	<p>○個別の指導計画が作成され、配慮が必要な子どもへの適切な対応が行われています。（加配保育士の配置・職員間での情報共有と対応の一貫性）</p> <p>○室内の刺激を減らす環境づくりに工夫がされており、カーテンの使用や壁面装飾の簡略化などの実践がされていました。</p> <p>○クールダウンする場合には、事務室やリズム室などを活用し、個々のケースに応じた配慮がされていました。</p> <p>○加配保育士だけでなく、担任も研修に参加し、研鑽に努めています。また、研修した内容も職員会などにて伝達し共有を図っていました。</p> <p>○保護者との連携を密にし、医療機関の医師の助言を共有し実践しています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 59 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。 □ 60 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。 ■ 61 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。 ■ 62 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。 ■ 63 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。 ■ 64 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。 ■ 65 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。 	<p>○利用人数や年齢に応じて部屋を分ける、子どもが安心できるような言葉かけや対応など、くつろいだ雰囲気でも過ごせるように工夫がされています。</p> <p>○長時間にわたる保育を利用する子どもが多く、子どもが過ごす環境に更なる配慮が必要です。また、延長保育専用の玩具を用意するなど更に充実した環境設定が望まれます。</p> <p>○保育士間での正確な伝達は、メモ等を活用し連絡を密にし子どもの姿について共有できるように努めています。場合によっては担当が残り直接保護者と話すようにしています。</p>
			⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 66 計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。 ■ 67 子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 68 保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。 ■ 69 保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。 ■ 70 施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。 	<p>○小学校との交流を積極的に行い、子どもが小学校への期待が持てるよう交流の機会が設けられていました。小学校からは保育園での生活の様子を見学に来ています。また、子どもたちは小学校の行事等への参加をしています。</p> <p>○指導計画の中で就学に向けた取り組みにより、スムーズな小学校への移行ができるよう明記されています。</p> <p>○小学校職員と保育園職員で定期的に情報交換等の連携が行われ、保育園での生活から積み重ねられた様々な育ちを共有し連続性がもてるように育てたい力、望ましい姿の見通しをもって子どもの発達状況を確認しあったり、特に配慮が必要な子どもへの援助の共通理解が行われています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
		(3) 健康管理	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 71 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。 ■ 72 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。 ■ 73 子どもの保健に関する計画を作成している。 ■ 74 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。 ■ 75 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。 ■ 76 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。 ■ 77 職員に乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。 ■ 78 保護者に対し、乳幼児突然死症候群（SIDS）に関する必要な情報提供をしている。 	<p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○保護者との連携を密にし、安全に集団生活が過ごせる配慮をしています。</p> <p>○SIDS等、午睡時に起こりやすい異変に対処するため、3歳未満児では午睡時に定期的にチェックをし、記票するなどの配慮が見られました。（0歳：5分に1回、1歳児：10分に1回、2歳児：15分に1回）</p> <p>○子どもの健康管理マニュアルが明文化され、保護者にも伝えています。</p> <p>○子どもの健康状態や発達・発育状態について職員間で確認し、常に把握をしています。</p> <p>○専門機関との連携の仲立ちをしています。</p> <p>○入園案内や保護者会総会などの場で園の安全対策について知らせています。</p>
			② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 79 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。 ■ 80 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。 ■ 81 家庭での生活に生かされ保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。 	<p>○各種検診が計画に基づき実施されています。</p> <p>○健康診断の結果を速やかに伝えていきます。必要に応じて結果に伴う保護者支援をしています。</p> <p>○佐久市全体の取組として、浅間病院と連携し、30年度から年長児のフッ素洗口による虫歯予防に努めています。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 82 アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 83 慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。 ■ 84 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。 ■ 85 食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。 ■ 86 職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。 ■ 87 他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。 	<p>○アレルギーによる食事の除去については医師の診断書をもとに栄養士、園長、担任等が保護者と面談の上適切に対応しています。</p> <p>○通常の献立表のほかに食材を細かく記した献立表を配布し保護者と一緒にチェックできるようにしています。</p> <p>○アレルギーの対応マニュアルが作成され全職員に周知徹底されていました。職員はそれぞれの役割を分担し組織的に対応が行われていました。</p> <p>○調理員との連携、確認が確実に行われる仕組みがあります。</p> <p>○アレルギー食の提供にはトレーを用い間違いなく提供できるように工夫をしています。</p> <p>○自由登園日（土曜日）には、確認の書類により、厳重に対応しています。</p>
	(4) 食事	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 88 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。 ■ 89 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。 ■ 90 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。 ■ 91 食器の材質や形などに配慮している。 ■ 92 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。 ■ 93 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。 ■ 94 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。 ■ 95 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。 	<p>○給食室の廊下壁面に、食品を色別に分けた食育指導の絵が貼られ、園児の食への興味や関心につなげていました。</p> <p>○楽しい雰囲気の中、食欲旺盛に食べる姿が見られました。</p> <p>○食育計画が作成され、調理員も含めた全職員で取り組んでいます。</p> <p>○「やまほいく」の実施もあり体を十分に動かしておなかをすかせ、おいしくいただく、という流れが保育計画の中でも位置付けられていました。</p> <p>○食べられるものが増えるような配慮と言葉がけで、少しずつ食べられるようになった場面が見られました。</p>	

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着眼点	コメント
			② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 96 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。 ■ 97 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。 ■ 98 食事の内容は、県産の農畜産物等を利用したものとしている。 ■ 99 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。 ■ 100 季節感のある献立となるよう配慮している。 ■ 101 地域の食文化や行事食などを取り入れている。 ■ 102 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。 ■ 103 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。 	<p>○食材はできる限り地元産を使い季節感のある食事の提供に努め、園で育てた野菜も提供し、購入野菜と切り方を変えるなど子どもにわかりやすく親しみやすい提供をしていました。</p> <p>○衛生管理マニュアルに基づき安全で安心な食事の提供に努めています。</p> <p>○保護者からレシピがほしいなどの申し出もあり、家庭にも関心を持ってもらい、食育の共有を図り連携に努めています。</p> <p>○行事や誕生会など会食の際には、調理員も子どもと共に食事をし関わりを持つように努めています。また、保育士との連携でも喫食状況や要望など聞いたり食についての相談を受けたりしています。</p>
	2 子育て支援	(1) 家庭との緊密な連携	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 104 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。 ■ 105 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。 ■ 106 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。 ■ 107 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。 	<p>○年度当初の保護者会や、入園のしおり、月々の園だより、連絡ノートなどを用いて日常の活動を知らせています。</p> <p>○事務室では、保護者の意向に耳を傾け希望や疑問に応えられるよう必要に応じて相談を受け保護者の安心が得られるよう丁寧に対応しています。</p> <p>○家庭訪問や保護者会、個別懇談会などの機会に保護者からの要望を把握したり不安がないよう取り組んでいます。</p>

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
		(2) 保護者等の支援	① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 108 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。 ■ 109 保護者等からの相談に応じる体制がある。 ■ 110 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。 ■ 111 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。 ■ 112 相談内容を適切に記録している。 ■ 113 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者にとって必要な情報や活動の様子を園だよりや掲示板等でタイムリーに提供することで保護者の安心や信頼が得られています。 ○保護者からの相談や要求には丁寧に応じ、常に全職員で情報を共有しています。 ○相談場所はプライバシーに配慮し担任だけでなく園長も同席して保護者の支援をしています。 ○家庭の状況を把握し共感しながら必要な場合には専門機関と連携するなどの支援をしています。 ○相談内容は適切に記録、保管しています。
			② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 114 虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。 ■ 115 虐待等権利侵害の可能性があると感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。 ■ 116 虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。 ■ 117 職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。 ■ 118 児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。 ■ 119 虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。 □ 120 マニュアルにもとづく職員研修を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○虐待についての研修会に参加し全職員で学びを共有しています。 ○虐待や不適切な養育態度が疑われる場合は保護者のプライバシー等に配慮し関係機関との連携をとる仕組みがあります。 ○日ごろから子どもの心身の状態を観察したり保護者との関わりに配慮しています。 ○園長を窓口として対応しますが、対応マニュアルに基づく職員研修を実施し、全職員が意識し組織的な取り組みができることが更に期待されます。

評価対象	評価分類	評価項目	評価細目	評価	着 眼 点	コメント
	3 保育の質の向上	(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 121 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り（自己評価）を行っている。 ■ 122 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。 ■ 123 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。 ■ 124 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。 ■ 125 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。 ■ 126 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。 	<p>○保育実践の振り返りを定期的に行い、年度途中であっても指導計画の修正をして子どもの育ちに沿った保育をすすめています。</p> <p>○日々の保育の反省、定期的な毎月の反省など、職員会や園内研修を通じて主体的に振り返りができています。</p> <p>○自己評価や指導案の評価・反省を活かし、保育の質の向上に向けた組織的な取組が更に充実することを期待します。</p>